

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立砂川高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 総務主任＝事務局長 計1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、総務部主任、教務主任（主幹教諭）、生徒指導部主任、進路指導部主任（主幹教諭）、保健相談部主任、ICT推進担当、3年次主任、2年次主任、1年次主任（主幹教諭） 計13名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授)、PTA代表、近隣中学校長、近隣企業代表、警察署安全課少年係、子供家庭支援センター所長
計6名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月6日（月）
内部委員13名、協議委員4名（協議委員欠席者には後日資料等を送付）
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
令和4年度学校経営計画、令和3年度学校経営報告、昨年度学校運営連絡協議会の課題
各分掌の今年度の取り組み、本校の現状と課題等
協議委員からの教育活動に対する意見等
 - 第2回 令和4年11月7日（月）
内部委員12名、協議委員3名（協議委員欠席者には後日資料等を送付）
各分掌・学年より、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議、意見交換
 - 第3回 令和5年2月6日（月）
内部委員12名、協議委員3名（協議委員欠席者には後日資料等を送付）
各分掌・学年より、これまでの教育活動に関する報告
学校評価の報告、提言に向けた協議、次年度に向けた方向性の確認
協議委員からの教育活動に対する意見
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月7日（月）
内部委員2名、協議委員2名（評価委員欠席者には後日資料等を送付）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和5年2月6日（月）
内部委員2名、協議委員1名（評価委員欠席者には後日資料等を送付）
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価アンケートの実施時期及び実施対象、実施方法

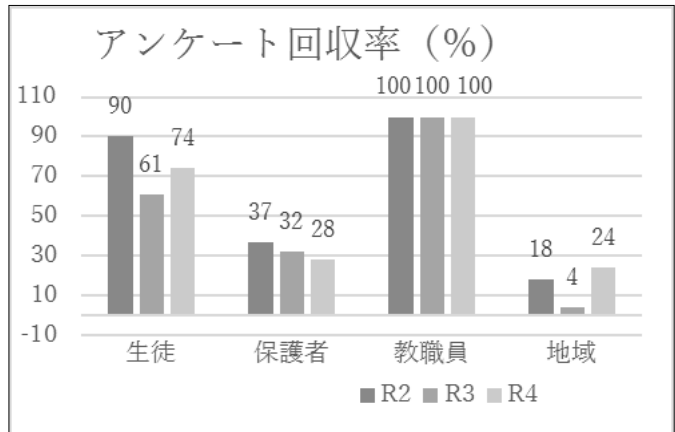
実施時期	令和4年12月10日から令和5年1月10日まで
実施対象	生徒 Microsoft Formsにて実施（無記名式）443人中327人回答
	保護者 Microsoft Formsにて実施（無記名式）443人中125人回答
	教職員 Microsoft Formsにて実施（無記名式）49人中49人回答
	地域 用紙配布（返信用封筒同封）にて実施（無記名式） 125世帯中30世帯回答

(2) 回収率について

昨年度までの反省を踏まえ、地域については Microsoft Forms を用いたオンライン上での回答から、用紙配布の形式に戻した。

その結果、回収率が改善した。

生徒、保護者については、昨年度から取り組んでいるオンライン上での回答を継続して実施した。生徒については、1人1台端末の導入効果（本年は1年次のみ）もあってか、回答率に改善が見られたが、保護者については低下した。



(3) 主な評価項目

- ①学習・授業について
- ②進路指導について
- ③自主的・実践的活動について
- ④教育目標と学校生活について
- ⑤読書活動について
- ⑥体罰・いじめ対策・防災教育について
- ⑦働き方改革について

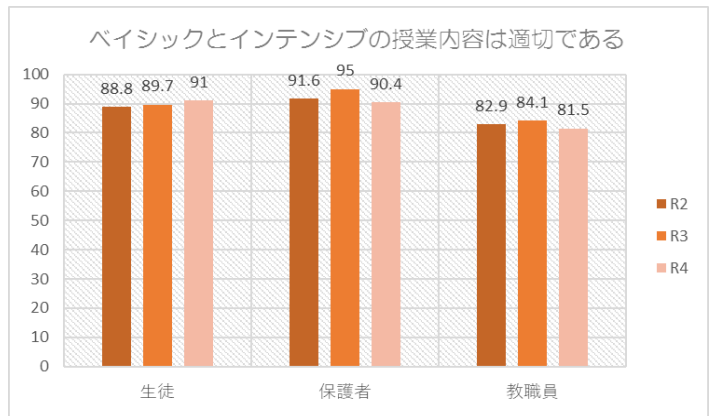
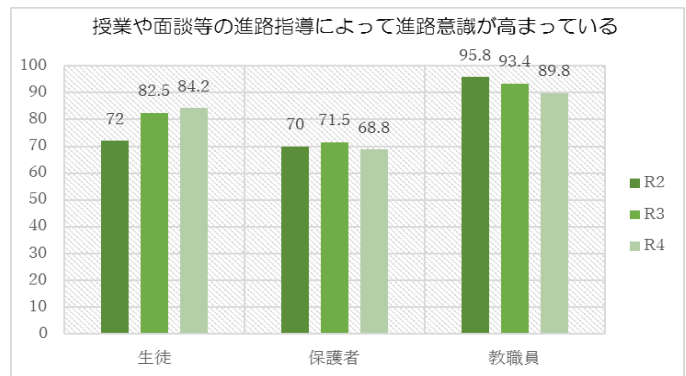
(4) 評価結果の概要

①学習・授業について

国語、数学、英語の3教科は、インテンシブとベイシックの授業クラスを編成し、習熟度別授業を行っている。インテンシブでは進学に向けた学力の育成、ベイシックでは基礎学力の定着を目標に授業を計画、実施している。これにより、生徒に必要な学力を段階的に身に付

けさせ、希望する進路の実現を図っている。今年度の調査では、生徒、保護者ともに90%以上が、この方式の習熟度別指導を肯定的に捉えている。特に、生徒は、微増ではあるが、経年で肯定的評価が増加している。

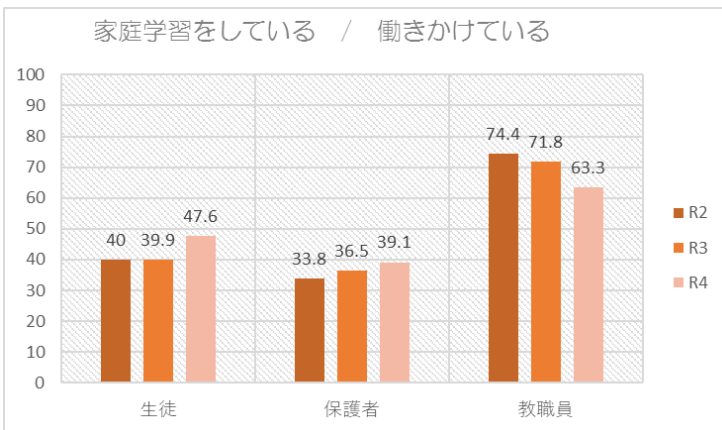
授業の年間目標および評価の方法について、授業内で教員の説明を聞いていると回答している生徒の割合は、92.9%と、3年間で約8ポイントアップしている。これは、今年度から年次進行で導入される観点別評価の影響もあると考えられる。



プリント等の授業の工夫や質問に関しても、

生徒については3年間で約4ポイントアップしており、総じて生徒の授業に対する満足度は高いと捉えられる。

対して、家庭学習の実施では、生徒が前年比7.6ポイント、保護者が2.6ポイントアップしているものの、評価としては依然として50%を下回っている。教職員については、コロナ禍でオンライン等による自宅学習期間があった令和2年度や3年度と比較する



と、今年度の家庭学習への働きかけは、1

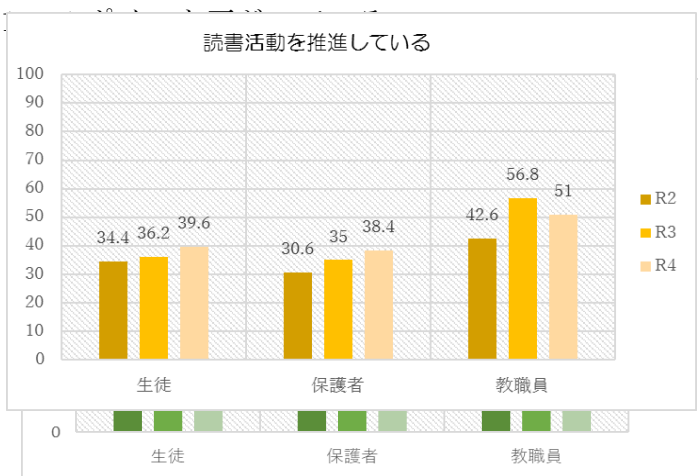
②進路指導について

授業や面談等の進路指導によって、卒業後の進路に向かっていこうという意識が高まったと答えている割合は、3年間で生徒が12.2ポイント上昇したのに対し、保護者は微減、教職員も6ポイント下がっている。

また、進路に関する情報が十分伝わっているかの項目では、生徒については3年間で10ポイント弱上昇しているのに対し、保護者は微減、教職員も10ポイント強下降している。

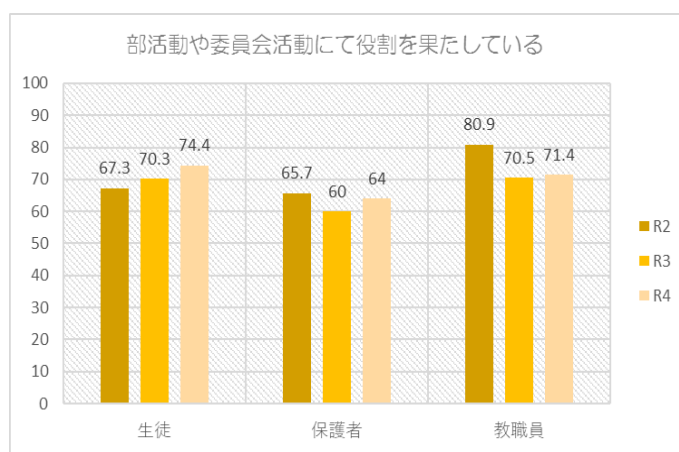
進路と関連付けた履修指導が行われていると答えた割合については、生徒や保護者が微増傾向であるのに対し、教職員は10ポイント近く下がっている。

教職員の肯定的評価の下降傾向は、本校に比較的若手教員が多いことや、コロナ禍等を含めた、見通しが持ちづらい現代における進路指導への迷い、多様なニーズに応える進路指導への負担などが原因として考えられる。



③自主的・実践的活動について

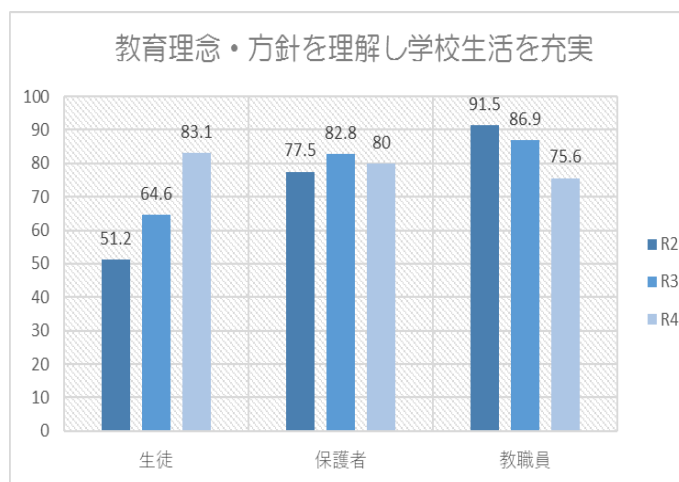
部活動や委員会活動で自分の役割を果たしている、については、生徒の肯定的評価が3年間で7.1ポイント上がっているのに対し、保護者は微減、教職員も10ポイント近く下がっている。肯定的評価の数値について、生徒が77.4%、教職員が71.4%と差が縮まっていると捉えることもできる。または、コロナ禍にあって、教職員にとっては、十分な部活動や委員会活動が行えなかったという意識が反映されているとも考えられる。



④教育目標と学校生活について

あなたは、砂川高校の教育理念、教育方針を理解し、学校生活の充実につなげているか、について、生徒の肯定的評価は令和2年度から32ポイント近く上昇した。保護者も8割と概ね肯定的な評価であった。

しかし、教職員は約10ポイント下がっており、意識的な取組について、再度教員間で確認したい。



⑤読書活動について

読書活動については、生徒と保護者の数値にわずかに上昇傾向にあるものの、教職員は昨年度から約5ポイント減となっており、全体を見ても低評価にとどまっている。

⑥体罰・いじめ対策・防災教育について

体罰やいじめのない学校づくりについては、肯定的な評価が9割を超えた。

特に、生徒は3年間で約8ポイント、保護者も約5ポイント上昇している。大多数の生徒にとって、学校が安心に通える場所になっていることがうかがえる。ただし、約1割の生徒・保護者は否定的な回答をしており、すべての生徒が安心・安全に通える学校づくりのためには、引き続きの取組が不可欠である。

⑦働き方改革について

ライフ・ワーク・バランスの実現のため、働き方改革に取り組んでいることを知っていますか（保護者）/働き方改革に取り組んでいますか（教職員）については、3年間継続して、保護者の認知度は5割程度にとどまっているのに対し、教職員の方は9割超えとなっている。保護者の肯定的回答が伸びない要因の一つには、世間一般の教員の働き方に対する良くないイメージが影響しているためではないかと推測する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒や保護者のアンケート結果から、家庭学習や読書活動など、引き続き基礎的な学力を支える取組について重点的に取り組む必要があると分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・より地域に開かれた学校づくりのために、情報発信をしていくことが必要だと分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 次年度に向けて改善策

- ・肯定的回答の低い家庭学習については、各教科で Teams やスタディサプリを活用し、生徒の学習状況を把握して支援するとともに、学習についていけない生徒、個別に学習することが困難な生徒については、学習補習事業「校内寺子屋」を活用するなどして、家庭学習や、授業の予習復習の充実につなげていく。
- ・同じく肯定的回答の少なかった読書活動については、今年度取り組んでいた twitter での図書館展示棚の紹介など外部向けの取組を、校内向けに Teams を使って配信する、図書館だよりについても、生徒向けに Teams で電子配信するなど生徒の興味関心を図書館に向けた活動を強化する。また、地域の図書館との連携についても推進していく。
- ・家庭との情報共有、連携について、学校内の様子や必要な情報が保護者へ伝わっているかの設問では、教職員、保護者とも肯定的回答が6割にとどまっている。また、進路に関する情報が十分伝わっているかの項目においても、保護者の肯定的回答は6割である。学校の様子を直接見たいという保護者には、気軽に短時間でも授業見学や行事に参加できる仕組みや、なかなか学校に来られない保護者には、学校連絡サービスや学校 HP などを通じて本校の教育活動を見られるようにする取組を推進していく。

(2) アンケート項目の刷新

経年変化を見るためのアンケート内容については、一定の成果が出ていることがわかった。今年度までの結果を踏まえた上で、時代のニーズに合わせ、ICT 機器の活用について等の質問項目を充実させるなど、質問項目を刷新していくことを提言したい。

特に生徒の回答平均時間（3分弱）を見ると、質問の意図が正しく伝わっていない可能性もある。生徒向けには、できるだけ、項目によって「先生は」、「あなたは」、と主語を入れ替えずに、すべて「あなたは」にするなどわかりやすい質問項目にした方が、より正確な回答が得られると考えられる。保護者の意見にも回答項目に「わからない」を入れてほしいというものがあり、保護者向けのアンケートについても、同様の改善を検討したい。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 19人（外部委員 7人、内部委員 12人）

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
10	5	3	1	0	0	0

- ・肯定的回答 79%（昨年度の68%から上昇）
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策ほ施しながら通常の教育活動に少しずつ戻す取り組みが出来た。また、協議委員会も前年度の書面開催から、学校での集合型で実施することが出来た。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延 0人 企画調整会議 0回 延 0人

【成果】 協議委員の直接の参加はなかったが、意見等の報告は行なった。
今後の教育活動の計画や実践へのアドバイスとなった。